

# 平成 30 年度 事業報告書

令和元年 5 月 29 日

一般社団法人 日本エレクトロニクスショー協会

# 平成 30 年度 事業報告

一般社団法人 日本エレクトロニクスショー協会

## 1. 法人運営

### 1-1. 協会活動報告

- (1) 当協会は、CEATEC JAPAN、Inter BEE 等の開催にあたり、主催者団体との連携をさらに強化し、IT・エレクトロニクス産業の先進技術を発信するとともに、出展企業のビジネス機会の創出に貢献することを目指し、企画、運営に努めた。  
また、CPS/IoT を基軸に、関係官庁、国内外の関係団体ならびに関連産業との連携を緊密化して、業界団体が主催する国際ビジネス展示会としての機能強化に取り組んだ。
- (2) CEATEC JAPAN は、「日本の成長戦略や未来を世界に向けて発信する Society 5.0 の展示会」として、業界の垣根を超え、政策・産業・技術の連携と、IoT・ロボット・人工知能(AI)を活用した「つながる社会、共創する未来」をテーマとする展示が披露・発信する総合展示会として開催した。
- (3) InterBEE は、「WHAT WILL YOU DO NEXT?—新たなメディアの可能性を世界に伝えよう」をスローガンに掲げ、国内外での出展誘致と特別企画に積極的に取り組み、幕張メッセ国際展示場全 8 ホールを使用して開催した。
- (4) 会員企業ならびに出展企業の一層の拡大とサービスの向上に努めるとともに、事務の効率化と合理化を推進し、法人として、総会、理事会、運営役員会等を次の通り開催し、当協会の運営に関する重要事項を審議し、各種事業を円滑に実施した。

### 1-2. 総会

- (1) 第 13 回通常総会（平成 30 年 6 月 1 日）を開催し、次の議案を決議した。  
議 案 1) 平成 29 年度事業報告及び決算報告承認の件  
2) 平成 30 年度事業計画（案）及び収支予算（案）承認の件  
3) 役員選任の件

### 1-3. 理事会

(1) 第 40 回書面理事会（平成 30 年 5 月 11 日）を開催し、次の審議事項を承認した。

- 審議事項 1) 平成 29 年度事業報告及び決算報告承認の件  
2) 平成 30 年度事業計画（案）及び収支予算（案）承認の件  
3) 役員選任の件  
4) 第 13 回通常総会の議案承認の件

(2) 第 41 回書面理事会（平成 30 年 6 月 1 日）を開催し、次の審議事項を承認した。

- 審議事項 1) 代表理事の選定  
2) 会長・副会長の役職役員の選定  
3) 会員の入会承認

(3) 第 42 回理事会（平成 30 年 11 月 20 日）を開催し、次の審議事項を承認した。

- 審議事項 1) 平成 30 年度収支予算変更（案）承認の件  
2) 会員入会承認の件（会員の状況）  
報告事項 1) 業務執行状況報告

(4) 第 43 回書面理事会（平成 31 年 3 月 26 日）を開催し、次の審議事項を承認した。

- 審議事項 1) 平成 31 年度事業計画（案）承認の件  
2) 平成 31 年度収支予算（案）承認の件  
3) 会員入会承認の件  
報告事項 1) 業務執行状況報告  
2) 会員の退会報告

### 1-4. 運営役員会

(1) 第 43 回運営役員会（平成 30 年 5 月 10 日）を開催し、次の事項を審議した。

- ・ 第 40 回書面理事会議案の件
- ・ 第 13 回通常総会議案の件
- ・ 第 41 回書面理事会議案の件

(2) 第 44 回運営役員会（平成 30 年 11 月 6 日）を開催し、次の事項を審議した。

- ・ 第 42 回書面理事会議案の件

(3) 第 45 回運営役員会（平成 31 年 3 月 20 日）を開催し、次の事項を審議した。

- ・ 第 43 回理事会議案の件

## 2. 事業報告

### 2-1. 「CEATEC JAPAN 2018」

#### (1) 実施状況

CEATEC JAPAN 2018 は、10月16日（火）から19日（金）までの4日間、千葉市・幕張メッセにおいて、25省庁・団体の後援、51団体の協賛により開催した。

今回で19回目を迎えるCEATEC JAPANは、2016年に脱・家電見本市を宣言し、社会を変えていく原動力であるCPS/IoTの総合展へと大きく舵を切り、本年は、昨年を引き続き「日本の成長戦略や未来を世界に向けて発信するSociety 5.0の展示会」と位置付け、業界の垣根を超え、政策・産業・技術を連携して、IoT・ロボット・人工知能(AI)を活用した「Society 5.0で実現する未来の社会」を披露・発信した。

本年の開催規模は、出展者数725社/団体（うち海外：19カ国/地域から206社/団体、2017年実績：667社/団体、昨年比8.7%増）、小間数は1,786小間（2017年実績：1,758小間、昨年比1.6%増）であった。開催期間中の来場者数は、合計で156,063名（2017年実績：152,066名、前年比3,977人増、昨年比2.6%増）を記録し、1日あたりの登録来場者数平均は39,016人（歴代5位）の結果となった。また、海外来場者数は1,985名（2017年実績1,844名）であった。開催期間中来場した報道関係者は1,359名（2017年実績：1,436名、昨年比5.4%減）となり、CEATEC JAPANに関する情報が連日国内外のオンラインニュース、テレビ、新聞等で発信された。

開催前日の10月15日（月）には、オープニングレセプション直前イベントとして、今回初となるグローバルシンポジウムを開催し、Society 5.0の実現に向けた先進国の動向を紹介した。また第二部として、昨年を引き続きConnected Industriesコンファレンスを運営し、産業を代表するリーダーよりConnected Industriesの事例紹介を行った。また、オープニングレセプションでは、総務大臣 石田 真敏 様、経済産業大臣 世耕 弘成 様、一般社団法人日本経済団体連合会 会長 中西 宏明 様をお迎えし、それぞれから祝辞を頂き、更に、今年は、CEATEC AWARD 2018の各大臣賞を大臣より直接授与を行った。会場内は、官公庁関係者、各社経営幹部など763名（2017年846名）が参加し、CEATEC JAPAN 2018の開幕を祝うとともに、盛んな交流が行われた。

また、本年は、初日のコンファレンスプログラムを刷新し、さまざまな産業界の企業経営者が登壇する基調講演が開催されました。コマツ 大橋 徹二 社長、Preferred Networks 西川 徹 社長、ローソン 竹増 貞信 社長、ファナック 稲葉 善治 会長がそれぞれ登壇した基調講演はいずれも盛況を博しました。コンファレンスは、初日のキーノートスピーチ以外でも、Society 5.0に向けた取り組みとして、Fintechやショッピング、スマートホームや自動運転、ヘルスケアや5Gなどの多彩なテーマにて、163セッションの講演が行われました。聴講者は、延べ30,748名（2017年実績：26,928名、昨年比12.5%増）となり、大盛況を博す結果となった。

## (2) 会場構成

本年は、Society 5.0 を具現化する「テクノロジー」と「マーケット」をカテゴリ化して、下記のように構成した。

- ・ トータルソリューション：  
幅広いマーケットに向けたソリューションを展示するエリア
- ・ デバイス/テクノロジー：  
「AI/ビッグデータ/サイバーセキュリティ」と「電子部品/デバイス&装置」で構成する、テクノロジー視点から見える未来や社会を披露・展開するエリア
- ・ インダストリ/テクノロジー：  
「エネルギー/スマートライフ/スマートワーク」と「モビリティ/ロジスティクス」「エンターテインメント」「フィットネス/ヘルスケア」「スマートファクトリー」で構成する、マーケット視点から見える未来や社会を披露・展開するエリア

## (3) 実施内容

### ①IoT タウン 2018

「社会課題を解決して Society 5.0 を築く」をテーマに、さまざまな産業のフロントランナーが集結する主催者企画「IoT タウン」を本年も設置した。本年で3年連続となる IoT タウンでは、NEXCO 東日本、竹中工務店や三菱地所などの初出展の8社を含む20社/団体が参画し、昨年比2倍となるスペースで、モノとサービスが一体化したソリューション・サービス (B2B2C) を展開し、持続可能な経済成長と国内外の社会課題の解決のため、業界・業種の垣根を超えた連携・共創を生み出す、CEATEC JAPAN 2018 の象徴的な企画となった。

### ②Startup & University Area

「スタートアップ、大学、大企業そして投資家を結ぶ」をコンセプトに、成長を目指す設立9年以下のスタートアップと研究成果の社会実装を目指す大学・教育機関が出展するエリアとして設置。71社、82小間が出展し、展示ブースでは、AI、M2M、医療・介護サービス、VR、複合現実、ハプティクス、スマート家電、センサー、ロボット、新素材などスタートアップや大学の研究機関ならではの展示や発表が行われた。また、開催期間中には、隣接するイノベーショントークステージにて参加のスタートアップ中心のピッチや、「知財でビジネスを加速するスタートアップ特集!!」と題したセッションが行なわれ特許庁の支援施策の紹介とともに、IPASの対象企業として選出された3社の事例が語られた。

### ③Co-Creation Park

各国の企業、スタートアップが集まるパビリオンを集約した Co-Creation Park を初めて設置した。今回初めてパビリオン出展するフランスを始め、アメリカ、イギリス、インドなどの各国のパビリオンが集結し、11か国80社/団体より革新的なスタートアップや中小企業が出展した。また、IoT 推進ラボが招聘したイスラエルやASEANのスタートアップも参加し、日本国内

にとどまらず、国を超えてIoTにより産業構造や社会構造が大きく変わる中、世界規模で推進される新しい潮流を育む注目の企画となった。また、開催期間中には、新設したフランスパビリオンの設置を祝うセレモニーが開催され、駐日フランス大使 ローラン・ピック 閣下にご来場いただきました。

#### (4) CEATEC AWARD 2018の実施

CEATEC JAPAN 2018 では、開催テーマ「つながる社会、共創する未来」のもとに、CPS/IoTによる「Society 5.0」の実現を目指し、新たな価値と市場の創造・発展に貢献、関係する産業の活性化に寄与することを目的に「CEATEC AWARD 2018」を実施した。

##### 総務大臣賞

金属上でもアンテナ特性が低下しない2.4GHz帯の小型・薄型の新アンテナ「Amcenna」  
京セラ株式会社（小間番号 H009）

##### 経済産業大臣賞

4D Gravity™搭載 360° VR 撮影用 ドローン「Next VR™」  
株式会社エアロネクスト（小間番号 A054）

##### 部門賞

###### トータルソリューション部門

###### ■グランプリ

液晶テレビ AQUOS 8K AX1 シリーズ(8T-C80/70/60AX1)  
シャープ株式会社（小間番号 A003）

###### ■準グランプリ

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会関係者の厳格かつスムーズな入場を実現する  
日本電気株式会社（小間番号 A010）

###### デバイス/テクノロジー部門

###### ■グランプリ

Hyperfluorescence™世界初の商品化に向けて  
株式会社 Kyulux（小間番号 S016）

###### ■準グランプリ

最先端遠隔操作ロボット（アバター）による労働問題の解決  
株式会社メルティン MMI（小間番号 S016）

###### インダストリ/マーケット部門

###### ■グランプリ

関係性データのセンシングプラットフォーム“NAONA”  
株式会社村田製作所（小間番号 H071）

###### ■準グランプリ

家庭用全自動お片付けロボット  
株式会社 Preferred Networks（小間番号 A060）

### 審査員特別賞

技術の革新によって実現できる「おもてなし」を大切にしたいローソンが目指す未来型コンビニ株式会社ローソン（小間番号 S015-20）

○両大臣賞、各部門のグランプリ・準グランプリは会期中、会場正面に掲示し、各社の研究開発意識の高さと受賞の栄誉を称え、受賞内容を大々的に展開、CEATEC JAPANの見どころとして紹介した。

### (5) 数値関連

#### ○出展状況

エリア	出展者数			出展 小間数
	日本	海外	合計	
トータルソリューション	101	36	137	562
電子部品／デバイス	78	56	134	443
AI／ビッグデータ	17	7	24	42
サイバーセキュリティ	6	0	6	13
モビリティ／ロジスティクス	7	4	11	21
スマートファクトリー	12	3	15	81
スマートワーク	8	0	8	16
エネルギー／スマートライフ	18	13	31	43
フィットネス、ヘルスケア	8	0	8	10
エンターテインメント	7	0	7	39
スタートアップ	52	3	55	61
大学または教育機関	22	0	22	21
主催者企画	181	86	267	434
合計	517	208	725	1,786

#### 2017年（参考）

エリア	出展者数			出展 小間数
	日本	海外	合計	
社会・街	76	31	107	531
家・ライフスタイル	38	12	50	133
デバイス・ソフトウェア	113	69	182	476
特別テーマ	241	87	328	618
合計	468	199	667	1,758

海外出展者の内訳	2018年		2017年(参考)	
	19ヶ国・地域/206社		22ヶ国・地域/199社	
アジア地域	(8ヶ国/地域：96社)		(11ヶ国/地域：132社)	
	・中国 33	・シンガポール 2	・中国 39	・シンガポール 1
	・台湾 24	・タイ 1	・台湾 31	・カンボジア 1
	・インド 20		・韓国 15	・タイ 1
	・韓国 7		・香港 4	・フィリピン 1
	・香港 5		・マレーシア 4	・ベトナム 1
	・マレーシア 4		・インド 27	・マカオ 1
ロシア地域	(1ヶ国/地域：11社)		(0ヶ国/地域：0社)	
	・ロシア 11			
北米地域	(1ヶ国/地域：29社)		(1ヶ国/地域：30社)	
	・アメリカ 29		・アメリカ 30	
ヨーロッパ地域	(6ヶ国/地域：57社)		(8ヶ国/地域：26社)	
	・フランス 23	・ノルウェー 1	・フランス 13	・ノルウェー 1
	・イギリス 13	・スウェーデン 1	・イギリス 5	・ポーランド 2
	・ドイツ 13		・スイス 2	・ポルトガル 1
	・ポーランド 5		・ドイツ 1	・イタリア 1
	・フィンランド 1			
中東地域	(2ヶ国/地域：13社)		(2ヶ国/地域：11社)	
	・イスラエル 12	・イラン 1	・イスラエル 10	・イラン 1

○CEATEC JAPAN 2018 登録来場者数

	16日(火)	17日(水)	18日(木)	19日(金)	合計
来場者	28,454	28,301	34,484	41,017	132,256
プレス	888	199	142	130	1,359
出展関係者	6,252	5,170	5,695	5,331	22,448
登録来場者合計	35,594	33,670	40,321	46,478	156,063

2017年(参考)

	10月3日(火)	10月4日(水)	10月5日(木)	10月6日(金)	合計
登録来場者合計	31,641	34,492	40,171	45,762	152,066

○コンファレンス聴講者数

	16日(火)	17日(水)	18日(木)	19日(金)	合計	2017年実績
セッション数	30	47	43	43	163	112
聴講者数	7,974	7,700	7,760	7,314	30,748	26,928



(6) 広報関連

新聞：

会期4日間の掲載数：297件（10月16日～19日） 昨年比+2件

主要紙の開幕初日記事見出し

- 「IoT 見本市、業種広がる」（10/16 日本経済新聞）
- 「久々に期待できるシーテック：眼光紙背（コラム）」（10/16 日経産業新聞）
- 「人手不足・災害 技術で解決 シーテックきょう開幕」（10/16 読売新聞）
- 「「2020年」控え 近未来先取り シーテックきょう開幕」（10/16 朝日新聞）
- 「IoT 未来の生活一変 シーテックきょう開幕」（10/16 毎日新聞）
- 「AI 描く近未来生活 シーテックきょう開幕」（10/16 産経新聞）

※参考：2017年の開幕初日記事見出し

- 「見本市シーテックきょう開幕／家電激減、主役は企業向け」（10/3 日本経済新聞）
- 「IoT・AI 異業種続々／シーテックきょう開幕」（10/3 読売新聞）
- 「IoT 使い働きやすく／シーテック開幕」（10/3 朝日新聞）
- 「未来の生活いかが？／シーテックきょう開幕」（10/3 毎日新聞）
- 「「脱家電」鮮明に／シーテック・ジャパン開幕」（10/3 産経新聞）

テレビ：

テレビ放映実績

- ニュースチェック 11 (NHK) 23:10-23:40 (内 CEATEC の内容：4分36秒)
- Nスタ (TBS) 15:49-19:00 (内 CEATEC の内容：5分27秒)
- プライムイブニングニュース (フジテレビ) 16:50-19:00 (内 CEATEC の内容：4分40秒)
- ワールドビジネスサテライト (テレビ東京) 23:00-23:58 (内 CEATEC の内容：8分33秒)
- 日経プラス 10 (BS テレビ東京) 22:00-23:00 (内 CEATEC の内容：10分07秒)

テレビ放映実績（開催前～会期終了）

開催前から会期終了までの国内テレビ放映時間は、合計で2時間56分52秒（参考2017年2時間56分24秒）となった。

○テレビ放映実績（国内）

	2018年		2017年(参考)		2016年(参考)	
開催4日前	—	—	—	—	2番組	7分40秒
開催前日	25番組	1時間22分32秒	21番組	57分35秒	23番組	1時間44分25秒
開催初日	14番組	42分46秒	18番組	1時間18分21秒	13番組	37分35秒
2日目	11番組	45分41秒	6番組	39分58秒	4番組	17分8秒
3日目	1番組	31分18秒	1番組	30秒	0番組	0分0秒
4日目	1番組	4分35秒		—	3番組	2分37秒
合計	52番組	2時間56分52秒	46番組	2時間56分24秒	45番組	2時間49分25秒

## 2-2. 「Inter BEE 2018」

Inter BEE 2018 は、11月14日（水）から16日（金）までの3日間、千葉市・幕張メッセにおいて開催した。

### (1) 開催スローガン

「WHAT WILL YOU DO NEXT? 新たなメディアの可能性を世界に伝えよう。」

Inter BEE は、1964年の東京オリンピックの翌年から開催。この半世紀にわたり、放送メディアは白黒からカラーへ、アナログ（SDTV）からデジタル（HDTV）へと成長発展を重ね、昨年、ついに4K・8K放送への新たなスタートを切った。

Inter BEE は、東京オリンピック・パラリンピックの開催で、世界から日本に注目が集まる2020年に向け、「新たなメディアの可能性を世界に伝えよう。」という思いをスローガンに掲げて開催した。

### (2) 開催基本計画

2017年から東京オリンピック・パラリンピックの直前開催にあたる2019年までの3ヶ年をひとつのスパンとして捉え、超スマート社会「Society5.0」の実現に向けてメディア&エンターテインメント産業の新たなユーザ体験を提示する場として、「コンテンツ」を中核に位置づけ、「つくる（制作）」「おくる（伝送）」「うける（体験）」の要素を網羅した「メディア総合イベント」に発展することを目指し、2018年はその取り組みを加速させた。

#### ① コンテンツ

これまで日本科学未来館（東京・江東区）で開催されてきた最先端コンテンツ技術の国際イベント「デジタルコンテンツ EXPO」（主催：一般財団法人デジタルコンテンツ協会）を Inter BEE 会場内で同時開催した。

コンテンツの制作支援や表現を豊かにする多様な技術を紹介し、未来を体験いただくと共に、コンテンツ技術のメディア&エンターテインメント分野への活用を促進させる機会とした。

#### ② つくる（制作）

デジタル化の進展に伴い、映像制作が簡便になりユーザの幅が広がる中、INTER BEE CREATIVE MEET-UPにおいて、ユーザグループ「VOOK LABO」の協力により、「映像研究所」と題するユーザ会を実施し、Inter BEE で出展されている各社の機材を制作者目線で研究する来場者同士の交流の場として活用された。

#### ③ おくる（伝送）

特別企画「INTER BEE 5G」を新設し、2020年にサービス開始を目指す「第5世代移動通信システム（5G）」のユースケースとして期待されるメディア&エンターテインメント分野での活用の可能性を訴求した。

また、特別企画「INTER BEE IP PAVILION」を新設し、実機接続によるインターオペラビリティ展示を3規格と画質比較展示で4コーナーを展開し、あわせてIP関連企業展示、セミナーで構成してIPライブ伝送の最新技術動向を紹介した。

#### ④ うける（体験）

本年12月1日から放送を開始した新4K8K衛星放送のチューナ搭載テレビの展示や、受信方法の周知・広報、各局の番組・コンテンツの紹介等を展開した。

#### (3) 過去最大規模で開催

国内外で積極的な出展誘致活動を展開し、昨年の1,139社/1,983小間を上回る1,152社/2,054小間（前年比出展者数1.1%増/小間数3.6%増）の出展を得た。

幕張メッセ国際展示場 全8ホール（54,000㎡）、イベントホール、国際会議場全館を使用して開催した。

#### (4) Opening Session & Keynote/レセプションパーティ

##### ① Opening Session & Keynote

従来までの開会式に変わり、開催初日11月14日（水）午前10時より、国際会議場2階「コンベンションホール」において、映像・照明演出ステージでOpening Sessionを執り行った。

JEITA 柵山 正樹 会長の主催者挨拶につづき、総務大臣政務官 國重 徹 様、経済産業省大臣官房審議官 吉田 博史 様をご来賓としてお迎えし、祝辞を賜った。

柵山会長と来賓の國重様、吉田様に、後援団体の代表者、さらには新4K8K衛星放送事業代表者が加わり、Inter BEE 2018の開幕と、新4K8K衛星放送開始直前を象徴するフォトセッションを行った。

続いて、総務省 大臣官房審議官 奈良 俊哉 様、経済産業省 コンテンツ産業課長 高木 美香 様、日本放送協会 専務理事・技師長 児野 昭彦 様、一般社団法人放送サービス高度化推進協会 理事長 福田 俊男 様、新4K8K衛星放送事業者代表者による基調講演を行った。

##### ② レセプションパーティ

同日夕刻、後援いただいたNHK、一般社団法人日本民間放送連盟、一般社団法人電波産業会、一般財団法人デジタルコンテンツ協会の来賓と、出展企業幹部とユーザとのエグゼクティブ向けビジネス交流の機会として、東京ベイ幕張ホールにてレセプションパーティを開催した。

#### (5) 展示会の幅を広げる企画の拡充、さらに大きな潮流へ向けた新企画の展開

##### ① INTER BEE EXPERIENCE

恒例となったSRスピーカー体験デモと、高品質なヘッドフォンとマイクロフォンの試聴デモを展開し、来場者に体感していただいた。

##### ② INTER BEE IGNITION

VR（仮想現実）、AR（拡張現実）、ホログラム等の映像表現技術や、ライブエンターテインメント技術を集め、新たな映像体験を訴求する企画を展開した。

③ INTER BEE CONNECTED

番組同時配信、キー局のネット戦略、OTT 最新動向、視聴計測技術等、メディアビジネスの最新動向を集約して情報交流を促進する展示とセッションを展開した。

④ INTER BEE CREATIVE

ヒット作品のメイキング映像等を本企画限定で披露し、第一線で活躍する監督やクリエイターによる制作秘話や、最新の制作ツールの活用事例等を紹介した。

(6) 多彩なコンファレンスを企画

① 基調講演

11月14日(水)「Opening & Keynote」

「2020年代における放送サービスの姿と視聴スタイルの変化」

11月15日(木)「大胆に予測！203X年のスマートブロードキャスト」

「CDNセッション2018」

11月16日(金)「5Gセッション2018」

「IPライブ伝送の規格と導入事例」

② 特別企画基調講演

INTER BEE CONNECTED 基調講演

11月14日(水)「ネットとテレビの境目からテレビの未来を語る」

INTER BEE CREATIVE 基調講演

11月15日(木)「ジャパン・コンテンツパワー」

INTER BEE IGNITION 基調講演

11月16日(金)「新しい都市型エンターテインメントの仕掛けと拡張性」

③ 特別講演

11月14日(水) eスポーツ、海外業界動向、VR、ネットフリックス、スポーツ中継、他

11月15日(木) AWS、アカマイテクノロジー、災害情報とAIの活用、他

11月16日(金) マイクロソフト、OOYALA、ATOMOS、メディア創造、他

(7) 関連団体との連携強化

NHK：ブース出展

一般社団法人日本民間放送連盟：「第55回民放技術報告会」を同時開催

一般社団法人放送サービス高度化推進協会：ブース出展、エントランス新4K8K衛星放送デモ

一般財団法人デジタルコンテンツ協会：DCEXPO 2018を同時開催

一般社団法人日本ポストプロダクション協会：会員企業のINTER BEE CREATIVE参加

(8) 国際化の推進

グローバルパートナーである国際放送機器製造業者協会のIABMによる特別講演を実施した。

## (9) 出展者数／出展小間数

部 門	出展者数			小間数	2017年実績	
	日本	海外	合計		出展者数	小間数
プロオーディオ部門	102	231	333	402	359	365
映像表現／プロライティング部門	25	25	50	67	50	73
映像制作／放送関連機材部門	296	346	642	1,412	628	1,387
ICT／クロスメディア部門	83	44	127	173	102	158
合 計	506	646	1,152	2,054	1,139	1,983

海外出展者の 内訳	2018年				2017年(参考)			
	34カ国・地域／646社				33カ国・地域／643社			
アジア地域	(6カ国・地域／116社)				(5カ国・地域／105社)			
	・中国	50	・韓国	28	・中国	49	・韓国	29
	・台湾	33	・香港	3	・台湾	25	・シンガポール	1
	・インド	1	・マレーシア	1	・インド	1		
北米地域	(2カ国／228社)				(2カ国／237社)			
	・アメリカ	210	・カナダ	18	・アメリカ	218	・カナダ	19
中南米地域	(1カ国／1社)				(1カ国／1社)			
	・ブラジル	1			・ブラジル	1		
大洋州地域	(2カ国／9社)				(2カ国／12社)			
	・オーストラリア	8	・ニュージーランド	1	・オーストラリア	10	・ニュージーランド	2
中東・ アフリカ地域	(1カ国／9社)				(1カ国／9社)			
	・イスラエル	9			・イスラエル	9		
ヨーロッパ地域	(22カ国／283社)				(22カ国／279社)			
	・イギリス	77	・ドイツ	72	・ドイツ	80	・イギリス	74
	・フランス	24	・イタリア	16	・フランス	21	・オランダ	16
	・オランダ	15	・スウェーデン	12	・イタリア	14	・スウェーデン	13
	・スイス	12	・スペイン	11	・スイス	11	・スペイン	10
	・ベルギー	7	・デンマーク	7	・ベルギー	9	・デンマーク	8
	・オーストリア	5	・トルコ	4	・ノルウェー	3	・ブルガリア	3
	・ノルウェー	4	・ブルガリア	4	・オーストリア	3	・フィンランド	3
	・スロバキア	2	・ハンガリー	2	・ハンガリー	2	・ラトビア	2
	・フィンランド	2	・ラトビア	2	・トルコ	2	・ポルトガル	1
	・ロシア	2	・ギリシア	1	・ロシア	1	・リトニシュタイン	1
	・ポルトガル	1	・リトニシュタイン	1	・チェコ	1	・スロバキア	1

(10) 来場者数

	14日(水)	15日(木)	16日(金)	合計
来場者数	14,525	13,029	13,285	40,839

参考：2017年実績 11/15(水):13,365、11/16(木):12,381、11/17(金):12,337、合計 38,083

(11) 次年度開催予定

会期：2019年11月13日(水)～15日(金)

会場：幕張メッセ

### 2-3. After NAB Show Tokyo 2018

当年度のアメリカ・NABで発表された製品・技術のセミナー、展示を国内で行うNAB公認イベント。今回で6回目の開催となった。

期 日：2018年5月23日(水)・24日(木) 10:00-18:00

場 所：東京・秋葉原「UDX」

展示フロア：2階「AKIBA\_SQUARE」

プレゼン：4階「UDX THEATER」「UDX ギャラリーネクスト2」

主 催：NAB日本代表事務所(映像新聞社)

一般社団法人日本エレクトロニクスショー協会

後 援：National Association of Broadcasters(全米放送事業者協会)

入 場：無料(登録制)

実施結果

	実績	前回実績	前回対比
出展者数	51社	49社	104%
来場者数	23日(水) 1,221名	2,804名	90%
	24日(木) 1,312名		
	合計 2,533名		

### 2-4. Asia and South Pacific Design Automation Conference 2019

LSI設計および設計自動化技術の国際会議。当会が運営事務局を受託。

期 日：2019年1月21日(月)～24日(木)

場 所：日本科学未来館

主 催：ASP-DAC2019実行委員会

運 営：一般社団法人日本エレクトロニクスショー協会

開催規模：参加者 346人

以上